

1998年度日本気象学会総会議案

日本気象学会第29期理事会
1998年5月28日

◎日本気象学会第30期役員選任について

1. 役員候補者選挙において当選した役員候補者

◁理事＞(21名)

○全国区(9名)

廣田 勇 京都大学大学院理学研究科教授
新野 宏 東京大学海洋研究所助教授
住 明正 東京大学気候システム研究センター
センター長・教授
木田 秀次 京都大学大学院理学研究科教授
村松 照男 気象庁予報部予報課主任予報官
田中 博 筑波大学地球科学系講師
関口 理郎 成蹊大学講師
山岸米二郎 (財)高度情報科学技術研究機構(RIST)
二宮 洸三 東京大学気候システム研究センター
客員教授

○北海道地区(2名)

藤吉 康志 北海道大学低温科学研究所教授
古川 武彦 札幌管区気象台長

○東北地区(2名)

佐伯 理郎 仙台管区気象台技術部長
田中 正之 東北大学理学部大気海洋変動観測研究
センター長・教授

○関東地区(2名)

藤部 文昭 気象研究所予報研究部主任研究官
神沢 博 国立環境研究所地球環境研究センター
研究管理官

○中部地区(1名)

田中 浩 名古屋大学大気水圏科学研究所教授

○関西地区(2名)

山下 晃 大阪教育大学教授
高橋 昭 大阪管区気象台長

○九州地区(2名)

宮原 三郎 九州大学理学部地球惑星科学科教授
由良 武 福岡管区気象台長

○沖縄地区(1名)

石島 英 琉球大学教授

◁監事＞(2名)

○全国区(2名)

中村 一 気象研究所予報研究部第二研究室長
徳野 正己 気象衛星センターシステム管理課調査
官

2. 理事候補者選挙当選者からの推薦による役員候補者

◁理事＞(6名)

○全国区(5名)

山内 恭 国立極地研究所教授(1949. 9. 28生)
推薦理由: 山内会員は, 大気物理学, 特に放射過
程の専門家であり, 大気組成・エアロゾルなど
の放射特性を理論的・観測的の面から研究し,
気候科学の発展に貢献してきた。一方, 南極観
測にも経験が豊富で, 他分野と気象学との境界
領域を指導してきた。学会は, 山内会員のこれ
らの能力を学会の発展に生かして頂けるよう,
期待するところが大きく, 理事候補として推薦
する。

小川 利紘 宇宙開発事業団地球観測データ解析研
究センター研究ディレクター
(1940. 5. 2生)

推薦理由: 小川会員は, 大気組成, 特にオゾンに
関する専門家であり, 理論的・観測的の面から
研究し, 大気化学の発展に貢献してきた。気象
学や気候科学に占める大気組成研究の重要性か
ら, 小川会員の研究活動と指導力に期待すると
ころが大きく, 理事候補として推薦する。

中村 誠臣 気象庁予報部数値予報課予報官
(1954. 11. 25生)

推薦理由: 中村会員は, 気象庁予報部において,
数値予報の領域モデルを担当している数値予報
の専門家である。天気予報の精度向上のために,
気象学の進歩を基礎に数値モデルの改良に務め
ている。気象学の社会的貢献において重要な数
値予報の経験を学会活動にも生かして頂くた
め, 理事候補として推薦する。

竹村 行雄 気象庁予報部予報課太平洋台風センター・所長(1948. 5. 29生)

推薦理由：竹村会員は、予報関連業務に長年従事し、降水短時間予報のルーチン化に際してはその技術開発に多大の貢献をした。また、竹村会員は、台風や気象衛星業務にも従事し、国際会議などの経験も豊富である。これらの経験を生かし、学会の業務や企画などで能力を発揮して頂けるよう、理事候補として推薦する。

城尾 泰彦 気象庁観測部環境気象課大気解析官(1956. 1. 11生)

推薦理由：城尾会員は、現在気象庁観測部環境気象課に所属しているが、これまで経験した業務から得られた、温室効果ガスをはじめとする各種の気象観測についての幅広い知識を有している。また、予算資料などの作成経験も豊富で、これらの能力を学会活動にも生かして頂くため、理事候補として推薦する。

以上、全国区、5名。

○中部地区(1名)

周東 健三 名古屋地方気象台長(1941. 10. 25生)

推薦理由：選挙により中部地区にて当選した宇治豪会員が緊急の不都合のため理事候補者になることを辞退されたことに伴い、その補充として、細則に従い中部地区会員の中から、学会活動の活発化に尽力して頂けるにふさわしい会員として、周東健三会員を推薦する。周東会員は海洋

分野を専門としているが、気候と海洋の密接な関係が話題になっている現在、学会におけるこの分野での研究の発展が期待される。

◎名誉会員の推薦について

日本気象学会定款第6条5項では、本学会の名誉会員について「この法人(日本気象学会)に対し特に功労のあった者で総会の議決をもって推薦する個人」と規定しています。理事会で協議した結果、以下の方がた(敬称略、五十音順)を新たに名誉会員に加えていただくように総会に提案することを決定いたしました。総会でご審議のうえ、推薦していただくようお願いいたします。

なお、現在の日本気象学会名誉会員は、磯野 謙治、岸保勘三郎、藤田 哲也、村上多喜雄、山元龍三郎、吉武 素二の6名となっています。

候補者名	推薦理由
荒川 昭夫	・数値モデルによる大気大循環の研究に於ける顕著な功績
小倉 義光	・気象力学の研究及び優れた多くの著作による気象学の教育・普及に於ける顕著な功績
笠原 彰	・数値予報及び大気大循環の研究に於ける顕著な功績
都田 菊郎	・数値モデルによる延長予報及び大気大循環の研究に於ける顕著な功績

第30期役員候補者の当選辞退について

1998年4月1日
日本気象学会選挙管理委員会
委員長 春日 信

先に行った日本気象学会第30期役員候補者選挙で当選した下記の理事候補者から、人事異動に伴う所属支部からの転出を理由に、理事候補への当選を辞退したい旨の届け出があり、選挙管理委員会としてこれを受理しました。

宇治 豪(中部支部選出)

この役員候補の補充については、次点者がいないため、日本気象学会定款および細則の規定に従い、第30期理事候補選挙当選者の推薦によって行われます。